

取扱説明書



LC18M-1

クローラ クレーン

適用号機 1001 以降

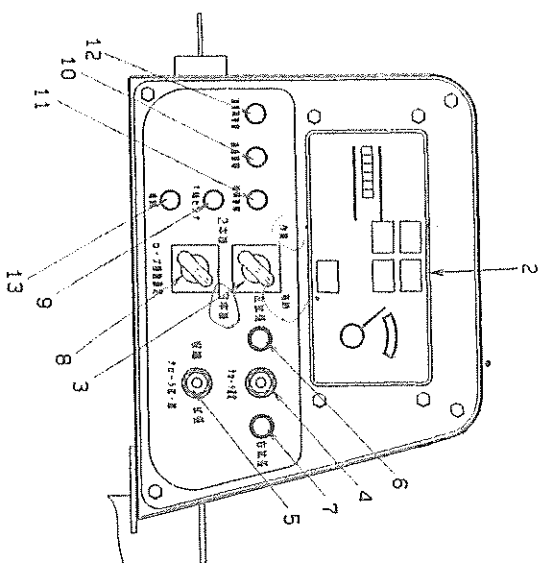
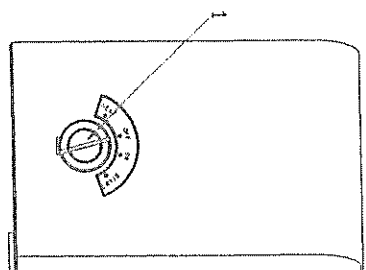
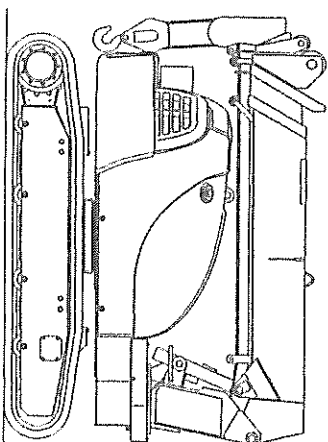
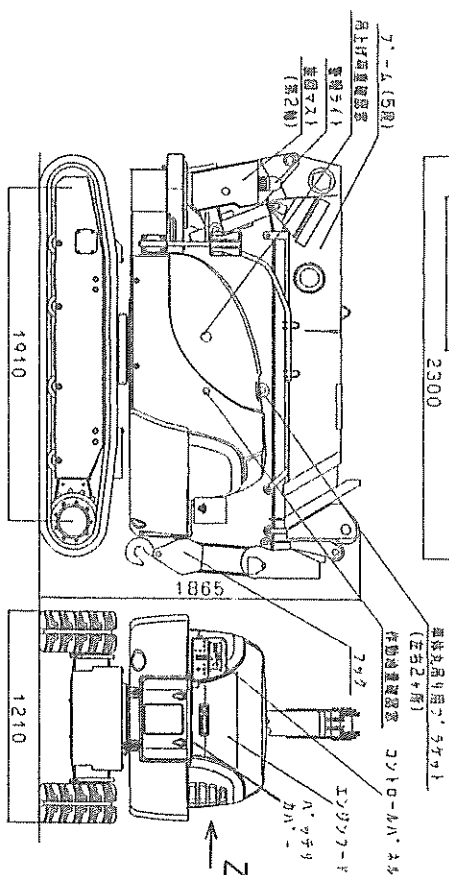
警告

この機械を不適切に使用すると、重傷もしくは死亡に至ることがあります。
オペレータ及び整備担当者は、この取扱説明書を必ず読んで内容を理解してから、当機械を運転・点検・整備してください。
取扱説明書は、この機械にたずさわる全てのオペレータ及び整備担当者の参考のために機械の収納スペースに保管して、定期的に読めるようにしてください。

KOMATSU

11. 各部の名称

11.2 コンタロールパネル



- 1 始動スイング
- 2 直前モニタ
- 3 作業・格納モード切替スイング
- 4 拡張クローラ設定スイング
- 5 クローラ拡張スイング
- 6 左クローラ拡張ランプ
- 7 右クローラ拡張ランプ
- 8 フライローブ搭載設定スイング
- 9 第1軸センサ位置ランプ
- 10 過巻警報ランプ
- 11 傾斜警報ランプ
- 12 過負荷警報ランプ
- 13 規制発生ランプ

12. 各装置の説明

運転操作に必要な装置の説明をしてあります。

正しく安全で快適な作業を行うために、これらの装置の操作方法や表示内容を正しく理解していただくことが、何よりも重要です。

12.1 コントロールパネル

① 始動スイッチ

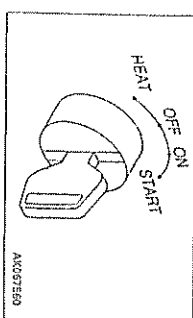
エンジンの始動・停止を行います。

OFF(切)の位置

始動スイッチキーの出し入れができ、電気系統のスイッチが切れ、エンジンは停止します。

ON(入)の位置

充電回路とランプ回路に電気が流れます。エンジン回転中は、この位置にしておいて下さい。



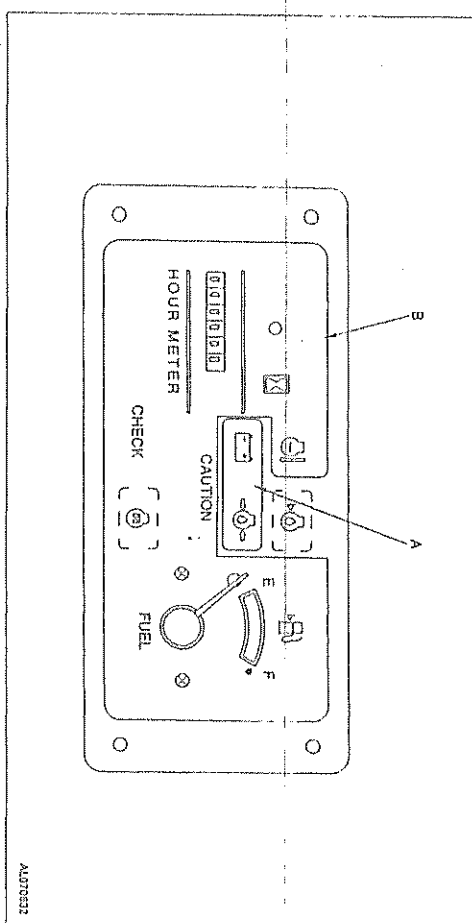
START(始動)の位置

エンジン始動の位置です。クランクシフト中はこの位置にしておき、始動したらすぐにスイッチから手を離して下さい。キーはON(入)の位置にもどります。

HEAT(予熱)の位置

寒冷時に始動するとき、この位置にして下さい。キーをHEAT(予熱)の位置にすると予熱モニタが点灯します。予熱モニタが点滅するまでキーをこの位置で保持して下さい。予熱モニタが点滅したらすぐにキーを離して下さい。手を離すとOFF(切)にもどりますので、すぐにSTART(始動)に回してエンジンを始動させて下さい。

② 車両モニタ



重要

作業点検は、これらのモニタだけで行わず、必ず点検・整備または、“13. 運転操作”の項を参照して実施して下さい。

A 緊急停止項目(12.1.1)

注意

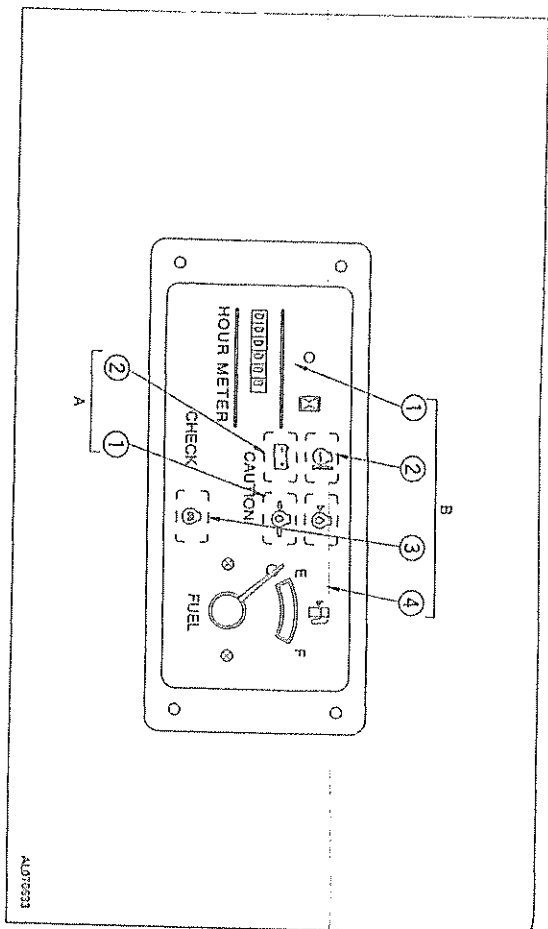
これらのモニタが点灯したら、すぐに作業を中止し、該当箇所を点検・整備して下さい。

エンジン回転中、注意しておくべき項目で、異常のときは、ただちに処置すべき項目を表示します。

異常があると、異常箇所のモニタが点灯します。

B メータ表示部(12.1.2)

サービスマメータ、エンジン水温計、燃料計と予熱モニタで構成されています。



12.1.1 A 緊急停止項目

注意

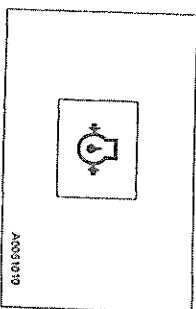
モニタが点灯したすぐにエンジンを停止またはローアイドリングにして、次の処置をして下さい。

● エンジン油圧

エンジン潤滑油圧が正常値以下になると点灯します。点灯したら、エンジンを止め、“174 こんな現象のときは”の項に従い点検して下さい。

補足説明

始動スイッチON(入)の状態ではエンジン始動時または停止時一瞬点灯しますが異常ではありません。

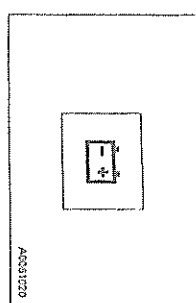


● 充電量

エンジン回転中に充電が正常に行われていないと点滅します。点滅したら、充電回路を点検し、異常があれば、“174 こんな現象のときは”の項を参照して下さい。

補足説明

始動スイッチON(入)の状態ではエンジン始動時または停止時、一瞬点灯しますが異常ではありません。



③ 作業・格納モード切替スイッチ

作業、または格納をする時切替えます。

格納：格納姿勢にするときにこの位置にします。クローラ拡張・収縮もこの位置にして操作します。第2軸を格納姿勢（車体の後ろ側）まで旋回できません。転倒防止のため、最大吊り荷重を小さくしてあります。作業するときは、作業の位置に切り替えて下さい。

作業：通常の作業をするときにこの位置にします。第2軸の旋回範囲は前方±120°となります。拡張クローラの操作はできません。

④ 拡張クローラ選定スイッチ

左拡張：左側のクローラのみを拡張・収縮したいときは、こちら（左）側に倒しておきます。

右拡張：右側のクローラのみを拡張・収縮したいときは、こちら（右）側に倒しておきます。

（中立）：左右両方を同時に拡張したいときはスイッチを中立（真ん中）にしておきます。

⑤ クローラ拡張スイッチ

クローラを拡張・収縮するときに操作します。

拡張：クローラを拡張するときは、こちら側に倒します。

収縮：クローラを収縮するときは、こちら側に倒します。

⑥ 左クローラ拡張ランプ

左クローラの拡張が完了した時に点灯します。

⑦ 右クローラ拡張ランプ

右クローラの拡張が完了した時に点灯します。

⑧ ワイヤロープ掛数設定スイッチ

フックのワイヤの掛数に応じて設定して下さい。

2本掛：2本掛けの時にはこちら側にします。

3本掛：3本掛けの時にはこちら側にします。

▲ 警告

ワイヤロープを2本掛けて使用しているときに、3本掛け設定にしないで下さい。ワイヤロープが切断する恐れがあります。

⑨ 第1軸センタ位置ランプ

第1軸の旋回角が0°または180°（上部旋回体か下部車体と平行）の時、点灯します。

この状態以外では、クローラの収縮はできません。

⑩ 過巻警報ランプ

フックがブーム先端に近づき、巻過ぎになる可能性がある時点灯します。このとき、ブーム退・ブーム伸・クインチ巻上操作はできません。

⑪ 傾斜警報ランプ

車体が5°以上傾いた時、点滅あるいは点灯します。このとき、ブーム縮・クインチ巻下以外の操作はできなくなります。作業を停止し、荷をおろして下さい。

⑫ 過負荷警報ランプ

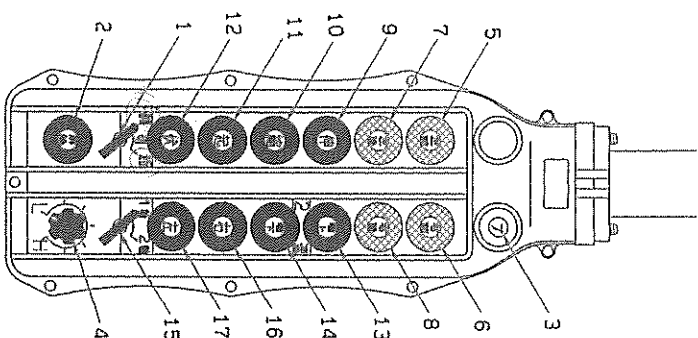
負荷が定格の100%以上の時、点灯します。

⑬ 規制発生ランプ

何らかの規制が発生している場合、点灯します。

操作ボックスの過巻解除（解除）ボタンを押している間、車体左側の荷重確認窓に規制コードが表示されます。規制コードは、2-86ページを参照下さい。

12.2 操作ボックス



- ① (作業・切・走行) 切替スイッチ
走行・切・作業を切り替えます。
(作業) を選ぶと走行ボタン (緑色) が無効となり、走行はできません。クローラを拡張・収縮するときは、(作業) を選びます。
(走行) を選ぶと作業ボタン (黒色) が無効となり、作業はできません。
(切) を選ぶと走行も作業もできません。安全のため操作をロックする場合、使用します。

- ② 過巻解除スイッチ 兼 規制・エラーコード表示スイッチ
過巻による自動停止状態が解除できます。やむをえず、本スイッチを押して作業機・ウインチを操作する場合には、自動停止機能が働きますので、巻き過ぎに注意して下さい。
また、押し続けている間、車体左側の荷重確認窓に規制・エラーコードが連続して表示されます。

- ③ アザースイッチ
アザーがなります。

- ④ 速度調整つまみ
以下に説明する⑤～⑭ (⑮は除く) とクローラ拡張・収縮の速度を調整できます。

- ⑤ 走行 (左前) スイッチ
左クローラが前進します。

- ⑥ 走行 (右前) スイッチ
右クローラが前進します。

- ⑦ 走行 (左後) スイッチ
左クローラが後進します。

- ⑧ 走行 (右後) スイッチ
右クローラが後進します。

- ⑨ フーム (伸) スイッチ
フームが伸びます。

- ⑩ フーム (縮) スイッチ
フームが縮みます。

- ⑪ フーム (起) スイッチ
フームが起きます。

- ⑫ フーム (伏) スイッチ
フームが伏せます。

- ⑬ ウインチ (巻上) スイッチ
ウインチが巻上がりします。

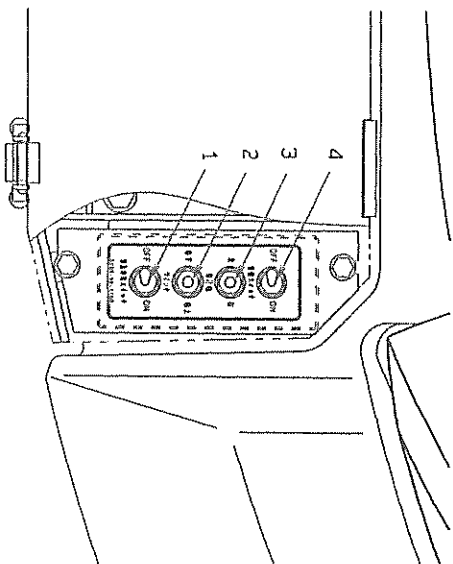
- ⑭ ウインチ (巻下) スイッチ
ウインチが巻下がりします。

- ⑮ 旋回 (第1軸・第2軸) 切替スイッチ
以下に説明する⑯、⑰で操作する旋回軸を選択します。旋回時は、どちらの軸を操作するか必ず確認してから操作して下さい。(第1軸・第2軸は、3. 各部の名称で確認してください。)

- ⑯ 旋回 (右) スイッチ
旋回軸を中心にクレーンが右方向に旋回します。

- ⑰ 旋回 (左) スイッチ
旋回軸を中心にクレーンが左方向に旋回します。

12.3 緊急非常スイッチ・整備スイッチ



△ 注意
あくまでも緊急用であり、非常時のみ使用下さい。

- ① 緊急非常スイッチ
作業中に、操作ボックスからの信号では操作不能になった場合や格納姿勢でのトラブルなどで外装カバーを取り外し車両を点検する必要があった場合の非常用スイッチです。ただし、エンジンが回転している必要があります。
- ② ワインチスイッチ
吊り荷の搬重中などに操作不能になったワインチの操作用のスイッチで①のスイッチをONにしたから操作します。

- ③ 第2軸旋回スイッチ
吊り荷の搬重中などに操作不能になった第2軸の操作用のスイッチで①のスイッチをONにしたから操作します。また、格納姿勢でのトラブルなどで外装カバーを取り外し車両を点検する必要があった場合にも作業機を旋回させるのに使用します。

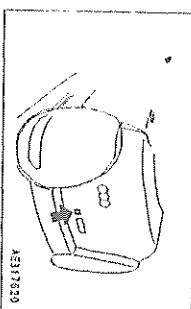
- ④ 整備スイッチ
警告
荷を吊っているときは、転倒・過巻の危険がありますので使用してはいけません。

点検整備・保守などのために、作業機動作の規制を解除する場合に使用します。

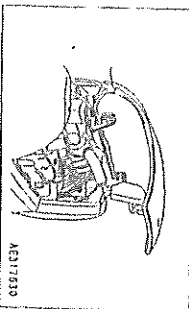
12.4 エンジンフード

△ 警告
エンジンフード内の点検、整備を行うときは、エンジンフードを開けた状態で固定して下さい。

- ① エンジンフードのロックボタンを押して下さい。

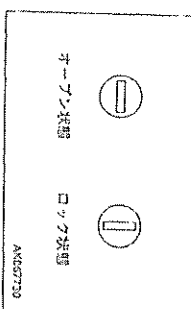
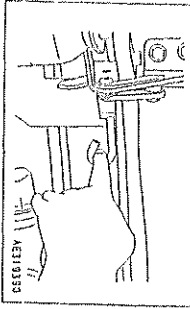


- ② カチッと言がするまで、フードを上まで押し上げて下さい。フードが固定されます。



- ③ 閉めるときは、一旦フードを上押し上げてリンクを引きフードを降ろして下さい。

重 要
フードを開けるとき以外は、必ず旋回して下さい。
ロックボタンのキー溝の向きによって旋回してあるか確認できます。



13.2 エンジンの始動

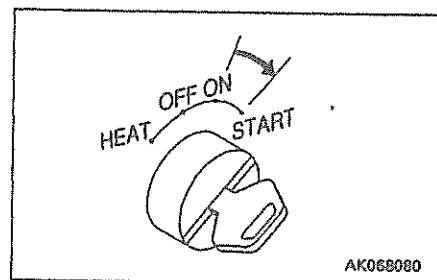
13.2.1 通常の始動

重 要

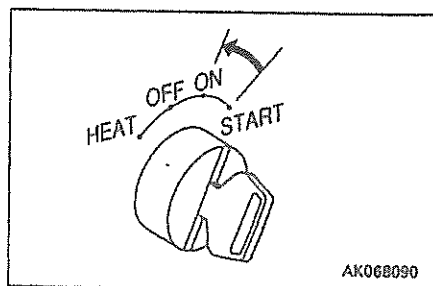
20 秒以上続けてスタータを回さないで下さい。

始動に失敗したときは、2 分間ぐらい間をおいてから再始動してください。

- ① 始動スイッチ②のキーを START(始動)に回して下さい。
エンジンが始動します。



- ② 始動後、始動スイッチ②のキーから手を離して下さい。キーは自然に ON(入)の位置にもどります。



13.2.2 寒冷時の始動

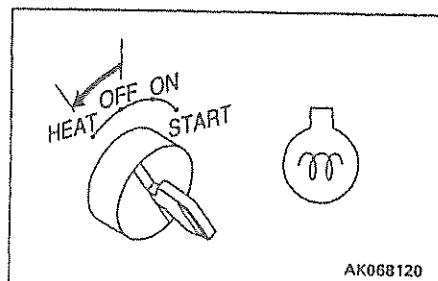
重 要

20 秒以上続けてスタータを回さないで下さい。

始動に失敗したときは、2 分間ぐらい間をおいてから ② の操作からやり直して下さい。

気温が低くなったときの始動は、つぎのように行って下さい。

- ① 始動スイッチ②のキーを HEAT(予熱)で保持し、予熱モニタ③が点灯していることを確認して下さい。
約 18 秒後、予熱モニタ③が消灯して予熱が完了したことを知らせます。

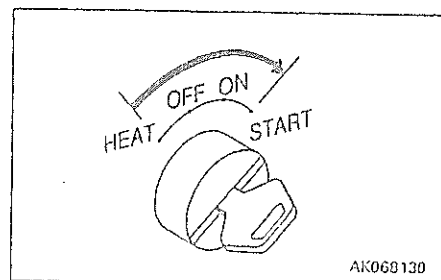


補足説明

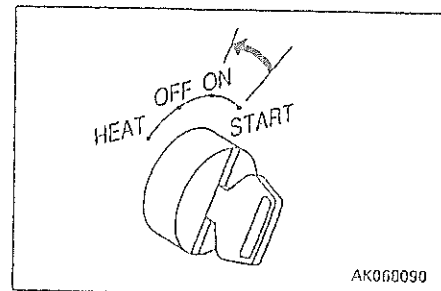
予熱の位置にしたときも、モニタ、ゲージは点灯しますが異常ではありません。

予熱モニタ③が消灯したら、始動スイッチ②のキーをSTART(始動)に回して始動させて下さい。

始動後、始動スイッチ②のキーから手を離して下さい。キーは自然にON(入)の位置にもどります。



AK060130



AK060090

13.3 エンジン始動後の操作・確認

警告

● 緊急停止

異常作動などのトラブルが発生した場合は、始動スイッチのキーをOFF(切)の位置に回して下さい。電気系統停止・エンジン停止となります。当社または当社販売サービス店に点検を依頼して下さい。

- 暖機運転を充分に行わないまま作業機を動かすと、操作ボタンに対する作業機の反応が鈍く、オペレータの意図しない動きになる場合がありますので、必ず暖機運転を行って下さい。特に寒冷時は、充分な暖機運転を行って下さい。

重要

作動油は、50～80℃位が適正ですが、やむを得ず低温で作業する場合でも20℃位まで油温を上げてから作業に移って下さい。

重要

作動油温20℃以下での急激な操作は避けて下さい。

重要

暖機運転が終わるまで、急激なエンジンの加速は避けて下さい。

20分以上、ローアイドルリングまたはハイアイドルリングさせないようにして下さい。

アイドルリングが必要なときは、ときどき負荷をかけるか中速回転にして下さい。

エンジン始動後、すぐに車の運転に移らず、つぎの操作および確認を行って下さい。

13.4 車両の走行

▲ 警 告

- 走行操作する前、トラックフレームの向きを確認して下さい。
スプロケットが前方にあるときは、操作が逆になります。
- 発進のときは、車の周囲の安全を確かめ、警報ブザーを鳴らしてから発進して下さい。
- 車の周辺には、人を近づけないで下さい。
- 走行路の障害物はかたづけて下さい。

① 操作ボックスの作業・切・走行切替スイッチを（走行）側に倒して（走行）を選択します。

② 操作ボックスのボタンスイッチを押します。

- 1) 前進するときは、（左前）、（右前）を同時に選択します。
前進しながら左へ旋回するときは（右前）のみを選択します。
前進しながら右へ旋回するときは（左前）のみを選択します。
- 2) 後進するときは、（左後）、（右後）を同時に選択します。
後進しながら左へ旋回するときは（右後）のみを選択します。
後進しながら右へ旋回するときは（左後）のみを選択します。
- 3) 信地（その場）旋回を行う場合、
時計回りするときは、（左前）（右後）を同時に選択します。
反時計回りするときは、（左後）（右前）を同時に選択します。

③ 速度調整は操作ボックスの速度調整ツマミで行って下さい。

13. 運転操作

13.6 作業準備

13.6.1 クローラ拡張・収縮

▲ 警 告

- 車体の廻りに障害物や人がいないことを確認した後、操作して下さい。
- 荷を吊った状態で操作しないで下さい。
- 拡張クローラは完全に収縮、あるいは拡張させた状態で使用して下さい。
- 中間の位置では絶対に使用しないで下さい。

- ① コントロールパネルのモード切替スイッチを（格納）にし、操作ボックスの（作業・切・走行）切替スイッチを（作業）にします。
 - ② コントロールパネルの拡張クローラ選定スイッチで拡張・収縮するクローラを選定します。
スイッチを（真ん中）にすると左右のクローラが動きます。
（右）に倒すと右クローラのみが、（左）に倒すと左クローラのみがそれぞれ動きます。
 - ③ クローラ拡張スイッチを（拡張）または（収縮）側に倒し、クローラを拡張・収縮します。完全に拡張されると左・右クローラ拡張ランプが点灯するので確認下さい。
- 左・右クローラ拡張ランプが両方とも点灯している場合、第2軸の旋回範囲は $\pm 120^\circ$ となります。第1軸は 360° 旋回します。
どちらか一方のみ点灯している場合、第2軸は点灯している側のみ 120° の作業範囲となり、第1軸は 0° か 180° （上部旋回体が下部車体と平行、第1軸センタランプが点灯）でなければ作業機は動きません。
 - 長時間同一路面に駐車後、クローラの拡張・収縮をさせる場合は、場所を移動してから行って下さい。ゴムクローラが食いついて動かない場合があります。
 - 拡張クローラを収縮させる時は、第1軸を 0° か 180° （上部旋回体が下部車体と平行、第1軸センタランプが点灯）に合わせて下さい。それ以外の姿勢ではクローラは収縮しません。
 - 床・路面が平らできれいな場所で操作して下さい。クローラが異物を踏んだ状態で操作しますと、思わぬキズをつけることがあります。
また、ゴムクローラの黒い跡を残すことがありますのでご注意下さい（オプションで白色ゴムクローラも用意しています）。
 - クローラは、負荷の軽いクローラ側から動きます。クローラの拡張は充分にスペースのある場所で行って下さい。

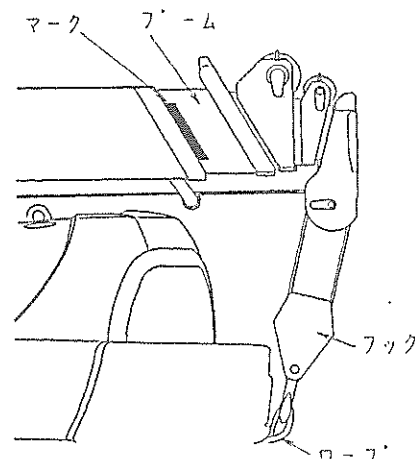
13.6.2 作業姿勢・格納姿勢の準備

(格納姿勢→作業姿勢)

- ① コントロールパネルのモード切替スイッチを(格納)にし、操作ボックスの(作業・切・走行)切替スイッチを(作業)にします。
- ② クローラを拡張します。(クローラ拡張・収縮の項参照)
- ③ 操作ボックスのウインチ(巻下)ボタンを押してワイヤをゆるめフックをはずします。
- ④ 操作ボックスの旋回(1軸・2軸)切替スイッチを(2軸)にして、旋回(左)ボタンを押してブームを作業範囲内(前方 $\pm 120^\circ$)まで旋回させます。
- ⑤ コントロールパネルのモード切替スイッチを(作業)にして、作業の準備は完了です。

(作業姿勢→格納姿勢)

- ① コントロールパネルのモード切替スイッチを(格納)にし、操作ボックスの(作業・切・走行)切替スイッチを(作業)にします。
- ② 操作ボックスのブーム(縮)ボタンを押してブームを黄色い線の位置まで縮めます。その際、ウインチ(巻上)ボタンを適宜押してフックが地面につかない様に気をつけます。

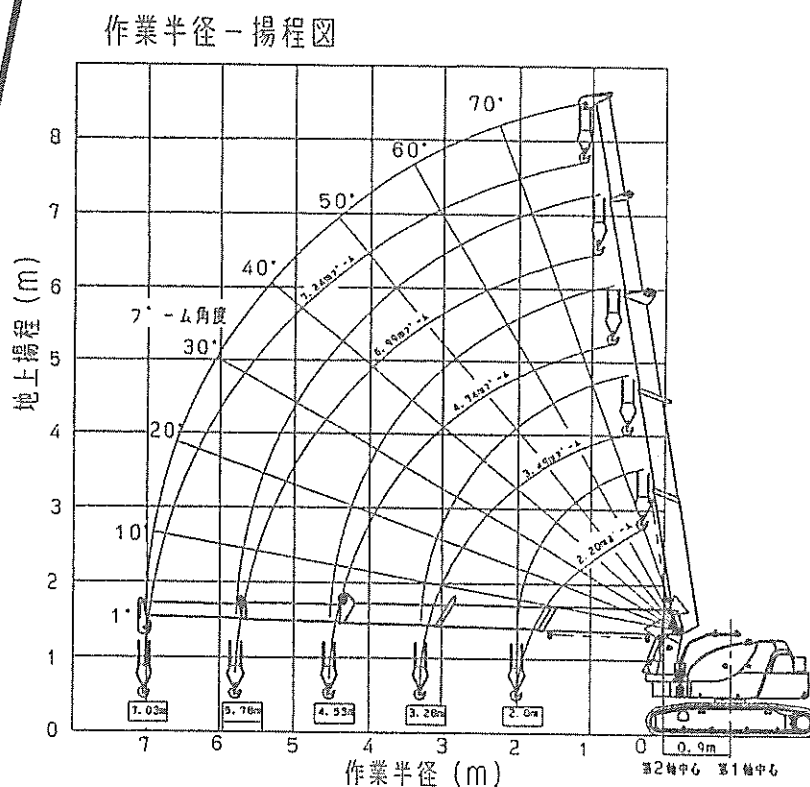


- ③ 操作ボックスのブーム(伏)ボタンを押してブームを最後まで伏せます。その際、ウインチ(巻上)ボタンを適宜押してフックが地面につかない様に気をつけます。
- ④ 操作ボックスの旋回(主・補/1軸・2軸)切替スイッチを(補)にして、旋回(右)ボタンを押してブームを真後ろまで旋回させ、フックをスリングにかけてウインチ(巻上)ボタンを押してフックを固定します。過巻スイッチが入って巻上がらなくなったら過巻解除スイッチを押して慎重に巻上げます。ワイヤを張りすぎないようにして下さい。
- ⑤ 操作ボックスの旋回(主・補/1軸・2軸)切替スイッチを(主)にして、旋回(右)ボタンまたは旋回(左)ボタンを押して上部を旋回させて、上部と下部をまっすぐにします。そのとき、コントロールパネルの1軸センタランプが点灯します。
- ⑥ クローラを収縮させます。(クローラ拡張・収縮の項参照)

13.8 作業半径-揚程図・定格総荷重表の見方

1) 車体添付位置

クレーンポストの左側(作業姿勢、ブームが車体前方のとき)に、
“作業半径-揚程図”と“定格総荷重表”(下図)があります。



注) 本図は、作業半径と地上揚程の関係を示し、ブームのたわみは含まれていません。

定格総荷重表 (単位: kg)

第2軸中心 作業半径	2.20~3.49m	3.49~4.74m	4.74~5.99m	5.99~7.24m	7° - ブームが車体前方の時の 第1軸中心から
0.6	1800				1.5
0.85	1500	1500	700		1.75
1.0	1380	1380	700	550	1.9
1.5	1010	1010	700	550	2.4
2.0	700	700	700	550	2.9
2.5	550	550	550	550	3.4
3.0	420	420	420	420	3.9
3.3	380	370	370	370	4.2
3.5		360	360	360	4.4
4.0		310	310	310	4.9
4.5		260	260	260	5.4
5.0			225	225	5.9
5.8			190	190	6.7
6.0				175	6.9
7.0				145	7.9

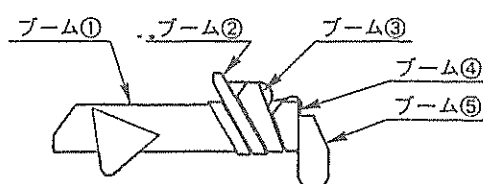
- 注) 1. この表は、ワイヤ3本掛け・クローラ左右とも完全張り出し時のものです。
2. ウインチワイヤロープを2本掛けで使用する際の最大定格総荷重は、1500kgです。
3. 第1軸旋回中心からの作業半径は、ブームが車体前方にまっすぐ伸びている場合に適用されます。
4. 吊荷走行は、各定格総荷重の1/2以下の場合、可能です。
5. 本機の運転には“小型移動式クレーン運転技能講習”と“玉掛技能講習”の修了証が必要です。

2) 見方

ブーム長さ・ブーム角度から作業半径－揚程図でおおよその作業半径（第2軸中心から）を求めます。ブームの状態・作業半径から定格総荷重表で定格総荷重を求めます。

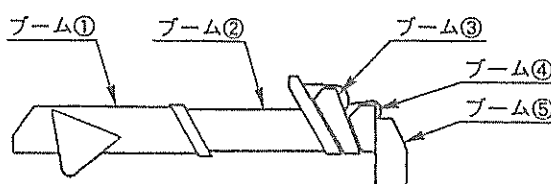
● ブーム長さ

(1) 2.20mブーム



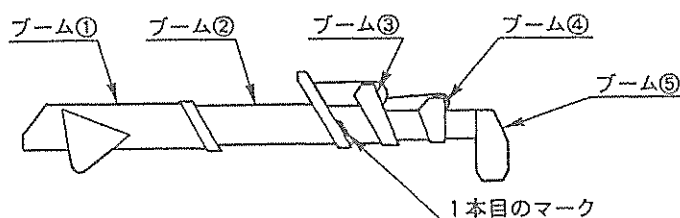
(ブームを全て格納した状態)

(2) 2.20～3.49mブーム



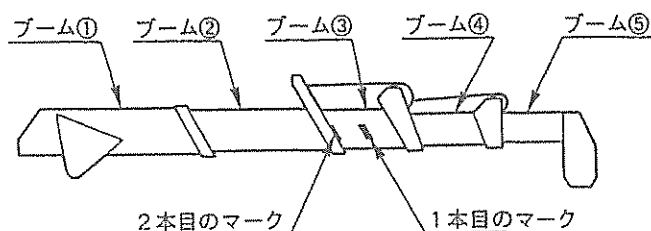
(ブーム②のみ伸長させた状態)

(3) 3.49～4.74mブーム



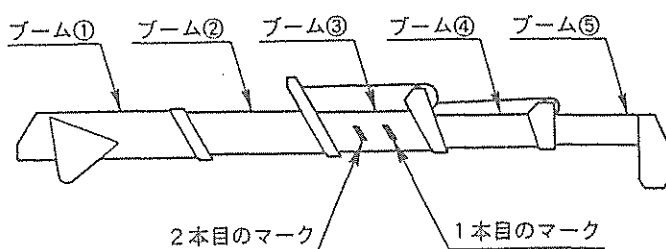
(ブーム②全伸、ブーム③の▼マークが見えるまで伸長した状態)
ブーム③を少しでも伸ばした時は、3.49～4.74mブームの性能で作業してください。

(4) 4.74～5.99mブーム



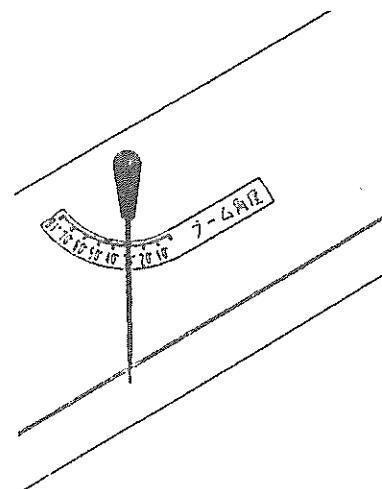
(ブーム③の2本目の▼マークまで、ブーム③を伸長した状態)
ブーム③の▼マークが1本、ブーム②より出たら4.74～5.99mブームの性能で作業してください。

(5) 5.99～7.24mブーム



(ブーム②, ③, ④, ⑤が全伸長した状態)
ブーム③の2本目の▼マークが見えたら、5.99～7.24mブームの性能で作業してください。

- ・ “ブーム角度” は、右図のようにブーム側面の角度計により、おおよそわかります。



13.9 クレーン操作

- ① 操作ボックスの作業・切・走行切替スイッチを（作業）側に倒して（作業）を選択します。

1) 旋回操作

▲ 警 告

作業半径内に人や物がないことを確かめてから操作を行って下さい。

1. 操作ボックスの旋回(第1軸・第2軸)切替スイッチで、旋回する軸を選択します。
2. 操作ボックスの速度調整ツマミで速度を調整します。
3. 旋回方向により、旋回（左）スイッチか旋回（右）スイッチを押すと、旋回します。
4. スイッチを離すと、旋回がとまります。

★第1旋回軸の回転角が0° または 180° のときに、車体後方パネルの「第1軸センタ位置ランプ」が点灯します。運搬時や作業終了時の収納姿勢をとる際の目安として下さい。

2) ブーム起伏

1. 操作ボックスの速度調整ツマミで速度を調整します。
2. ブームを起伏させます。
ブーム（起）スイッチを押すとブームが起きます。
ブーム（伏）スイッチを押すとブームが伏せます。

▲ 警 告

操作する方向に人や物がないことを確かめてから操作を行って下さい。

重 要

- 荷を吊り上げたままで、ブームを伏せると、荷の触れのためオーバーロードになりやすいので、十分注意して下さい。

3. スイッチを離すと、起伏がとまります。

13. 運転操作

3) ブーム伸縮

▲ 警 告

操作上の注意

- 荷の横引き、引込み作業はしてはいけません。
- ブーム伸縮作業により、フックが巻上げ、巻下げ状態になりますのでウインチ操作を同時に行いフックの高さを調整して下さい。

重 要

- 荷を吊り上げた状態で、ブームを伸長させるときは、オーバーロードになりやすいので十分注意して下さい。

1. 操作ボックスの速度調整ツマミで速度を調整します。

2. ブームを伸縮させます。

ブーム（伸）スイッチを押すとブームが伸びます。

ブーム（縮）スイッチを押すとブームが縮みます。

3. スイッチを離すと、伸縮がとまります。

4) ウインチ

▲ 警 告

荷を吊上げるとき、ブームのたわみのため、荷は若干前方へ移動しますので注意して下さい。

▲ 警 告

ワイヤ掛数設定スイッチを違った設定にした場合、ワイヤ切断の恐れがあります。

1. コントロールパネルのワイヤ掛数設定スイッチをワイヤの掛数に応じて設定して下さい。

2. 操作ボックスの速度調整ツマミで速度を調整します。

3. ウインチを操作します。

ウインチ（巻上）スイッチを押すとウインチが巻上がります。

ウインチ（巻下）スイッチを押すとウインチが巻下がります。

★ウインチ（巻上）（巻下）スイッチは、2段スイッチで浅く押すと低速、深く押すと高速となります。

4. スイッチを離すと、ウインチがとまります。

13.10 吊荷走行作業

▲ 警 告

荷物を吊り上げて移動する場合は、下記事項を守って下さい。

- 路面の状態、周囲の状況、作業状況を確認して走行して下さい。
- 走行速度は低速にして、荷が振れないように地面近くに保持し、特に操向（進路変更）、急発進、急制動に注意して下さい。

- ① 吊荷は通常作業の1/2以下になるように、作業半径はできるだけ小さくして吊荷を地面近くに保持して下さい。
- ② 操作ボックスの作業・切・走行切換えスイッチを“走行”にして下さい。
- ③ 以下は“車両の走行”による走行をして所定の場所へ移動して下さい。
- ④ 操作ボックスの作業・切・走行切換えスイッチを“作業”にして吊荷を降して下さい。

13. 運転操作

■ 過負荷防止機能の規制内容

- (1) 作業モード（操作ボックスの作業・切・走行切替スイッチ：作業、
コントロールパネルのモード切替スイッチ：作業）
通常の作業をするモードです。

・作業規制一覧

規制内容	ウインチ		ブーム				1軸	2軸		LED				警報	備考
	上	下	起	伏	伸	縮	軸	右	左	傾斜	過巻	過負荷	規制	報	
過巻	×	○	×	○	×	○	○	○	○		●			●	
傾斜（5度以上）	×	○	×	×	×	○	×	×	×	●				●	
ブーム上限（75度以上）	○	○	×	○	○	○	○	○	○					●	
ブーム下限（5度以上）	○	○	○	×	○	○	○	○	○					●	
負荷85%以上100%未満	○	○	○	○	○	○	○	○	○					●	
負荷100%以上（135%未満）	×	○	○	×	×	○	×	×	×			●		●	
（負荷135%以上）	×	○	×	×	×	○	×	×	×			●		●	
加-ラ 2軸左限（120度）	○	○	○	○	○	○	○	○	×					●	
両拡張 2軸右限（-120度）	○	○	○	○	○	○	○	×	○					●	
加-ラ 2軸左限（15度）	○	○	○	○	○	○	×	○	×					●	
両収縮 2軸右限（-15度）	○	○	○	○	○	○	×	×	○					●	
加-ラ 片拡張	2軸拡側限（120度）	○	○	○	○	○	×	○	×					●	
	↑（-120度）	○	○	○	○	○	×	×	○					●	
	2軸縮側限（15度）	○	○	○	○	○	×	○	×					●	
	↑（-15度）	○	○	○	○	○	×	×	○					●	
作業範囲外	×	○	×	×	×	○	×	×	×					●	

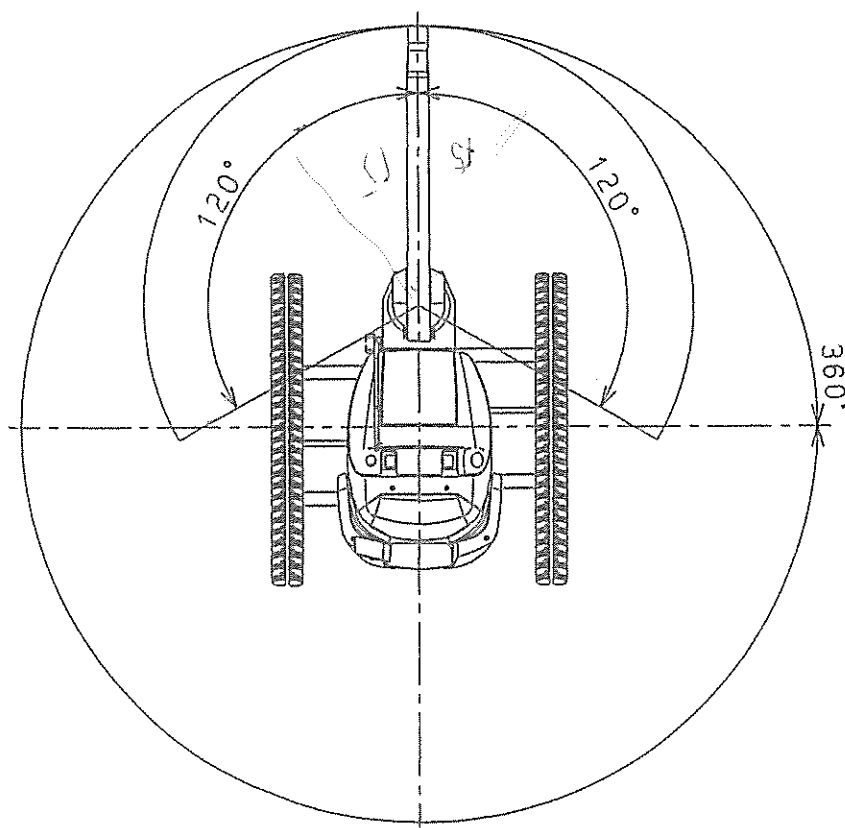
（○：可、×：非許可、●：連続、◐：断続）

・作業範囲（旋回）

①クローラ両方拡張

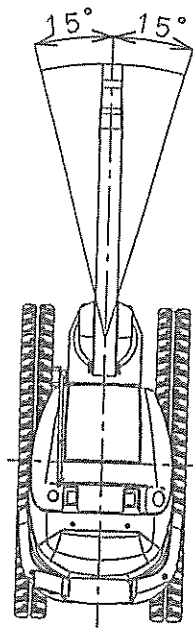
第1軸：360°

第2軸：-120°～120°



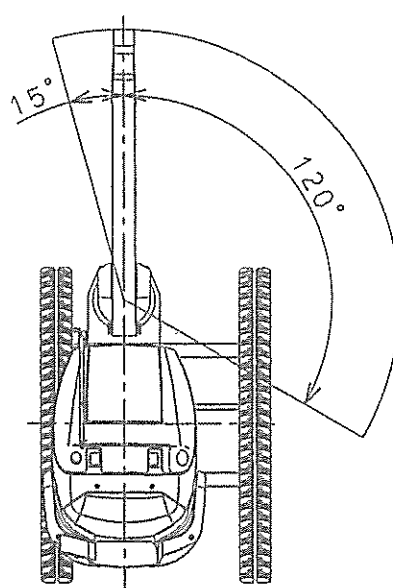
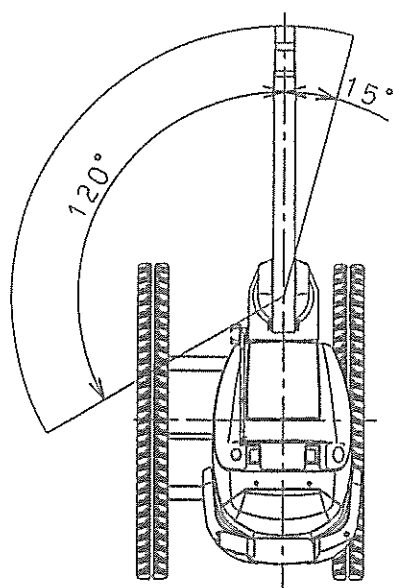
②クローラ両方収縮

第1軸：固定（前方or後方）

第2軸： $-15^{\circ} \sim 15^{\circ}$ 

③クローラ両方収縮

第1軸：固定（前方or後方）

第2軸：クローラ拡張側 120° クローラ収縮側 15° 

- (2) 格納モード (操作ボックスの作業・切・走行切替スイッチ：作業、
コントロールパネルのモード切替スイッチ：格納)

格納姿勢から作業姿勢へ、作業姿勢から格納姿勢へ姿勢を変更するモードです。(クローラの拡張・収縮も含みます。)

- ・作業範囲 (旋回)

クローラの拡張・収縮状態に関わらず

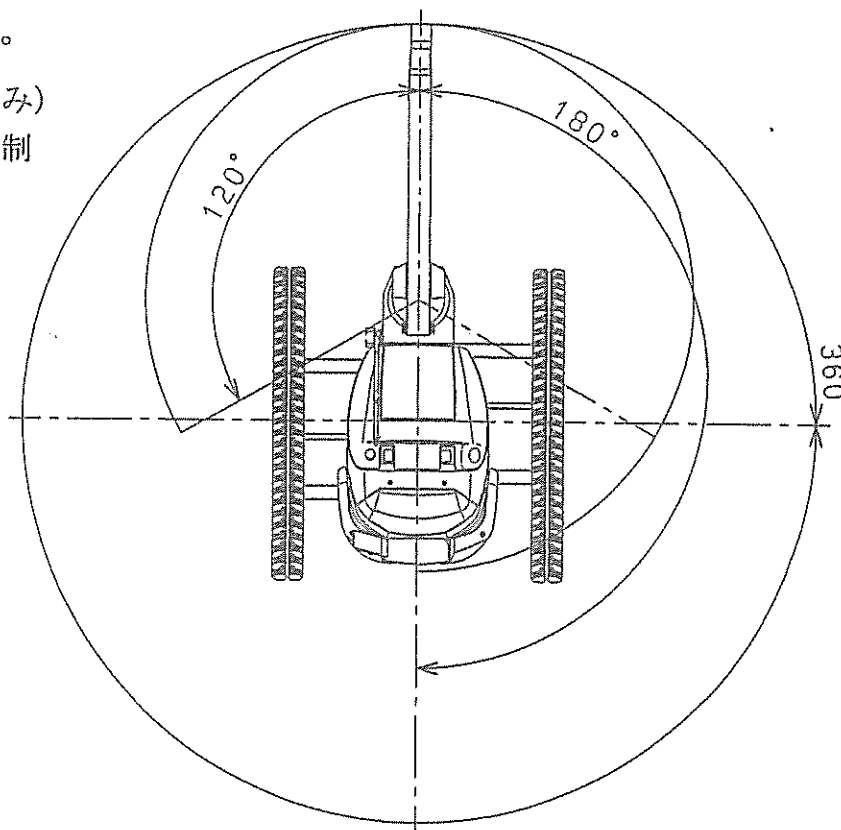
第1軸：360°

第2軸：左120°、右180°

(ただし、無負荷状態のみ)

- ・クローラ収縮動作の規制

負荷50kg以上の場合、
クローラ収縮は不可。



- (3) 走行モード (操作ボックスの作業・切・走行切替スイッチ：走行、
コントロールパネルのモード切替スイッチ：作業or格納)

- ・走行規制一覧

		LED				警報	備考
		走行	過負荷	傾斜	規制		
無負荷 (負荷50kg未満)	傾斜(5度未満)	○					
	↑(5度以上)	○		●			
吊り走行 (50kg以上)	負荷50%以下	○					
	負荷50%以上	×	●		●	●	(作業モード 定格に対し)
	傾斜(5度以上、2秒以上)	×		●	●	●	
	作業範囲外	×			●	●	(作業モード 時範囲)

(○：可、×：非許可、●：連続、●：断続)

27. 諸 元

■ LC08M-1

重量

・運転整備重量	1,390kg
---------	---------

性能

・吊上荷重	800kg
・クレーン容量	800kg x 1.8m
・ブーム長さ	1.86m - 3.11m - 4.36m
・巻上速度 (ロープ速度)	12m/min (3層目)
・ブーム伸長速度	2.5m/36sec
・ブーム上げ速度	1° ~ 81° / 20sec
・ワイヤロープ種別	シングルロープ 6 X Fi(29)IWRCφ6mm X 28m

トラックシュー

・ゴムシュー	180mm幅
--------	--------

動力源

・走行用ポンプ 電源 最大回転数 油圧 連続可能走行時間 バッテリー充電時間	EB65 X 2 個 2,700rpm 175kg/cm ² 20min 9H
・作業用ポンプ 電源 最大回転数 (ウインチ, 走行) (ウインチ, 走行以外) 油圧	AC200V 2,700rpm 1,800rpm 175kg/cm ²

単相200V 13A(実際は約9Aくらい)